公益社団法人 日本技術士会
The Institution of Professional Engineers, Japan
群馬県支部

会報　　第１号
発行日　平成 24 年 8 月 1 日
発行人　公益社団法人
日本技術士会群馬県支部
広報委員会

支部長挨拶

群馬県支部発足に当たり

公益社団法人　日本技術士会群馬県支部　支部長　加藤　洋

公益社団法人日本技術士会群馬県支部は、群馬県に属する正会員の賛同に基づき、平成２４年度の本部理事会（平成２４年１月１９日）において設置が承認されました。その後、信任投票により幹事が選任され、その中から本会会長（内村会長）の指命、及び理事会の承認を得て、平成２４年３月１５日に小職が、初代群馬県支部長に選任されました。

私が群馬県技術士会に入会したのは、平成２０年と比較的最近で、それまでは神奈川県小田原市にある日立グローバルストレージテクノロジーズ（ＨＧＳＴ）で、企業内技術士として日立技術士会に所属しておりました。

本部会員には、平成７年に機械部門で技術士に合格した時に入会しました。その後、平成１８年に総合技術監理部門に、平成２１年に経営工学部門に合格し、登録を完了しております。その他技術士関連では、ＣＰＤ認定会員に平成１５年に、ＡＰＥＣエンジニアとＥＭＦエンジニアも今年の４月に第１回目の更新をしたばかりです。私自身としては、技術士の資格取得試験を通して、又、活用して継続研鑽を続けて参りました。さらに、私は経営工学部門に合格すると同時に、本部の経営工学部会に入会しました。丁度その時、経営工学部会では「経営工学ビジョン２０５０」と題する冊子を、２年間かけて編纂するサロンがスタートしたところで、私もこのサロンに参加しました。

このサロンは毎月１回、東京田町にある東工大ＣＩＣビル８Ｆにあるサロンに毎回 10 人位集まり、２０５０年の経営工学は、又、工業や農業、エネルギー、原子力発電、交通機関はどうあるべきかについて真剣に議論を重ねて纏めた冊子で、平成２３年５月に部会から出版致しました。上は８２歳、下は３６歳の経営工学部門の技術士が、日本の半世紀後のあるべき姿について、夜を徹して議論し、冊子に纏め上げた事は、技術士冥利に尽きる経験でした。

群馬県支部は、平成２４年３月末現在で、正会員９０名、準会員４１名の合計１３１名の会員を有する組織となりました。群馬県支部としての今後の運営に当たりましては、日本技術士会提携群馬県技術士会の基本的考え方を引き継ぎ、群馬県支部は、『技術士の品位の保持、専門技術の向上を図り、かつ会員相互の連絡を密にし、地域に密着し、技術士業務の啓発、地域経済・産業の発展と福祉の増進に寄与する』ことを目的とし、群馬県支部の会員の皆様のご協力を得て、技術士 CPD 活動はもとより地域社会にもアピールできる各種活動を展開して参りたいと考えております。

具体的には、技術士資質の向上に向けた様々なテーマでの継続研鑽、企業や教育機関における技術士制度の普及・啓発、行政や中小企業での技術士の活用の促進、一般公開の講演会や無料技術相談会等の地域社会貢献活動の他、県支部としての情報発信の強化等々について、統括本部とも連携を図って組織的な運営に努めて参ります。

今後の群馬県支部の活動にご期待戴くと共に、皆様方からのご指導、御鞭撻宜しくお願い申し上げます。

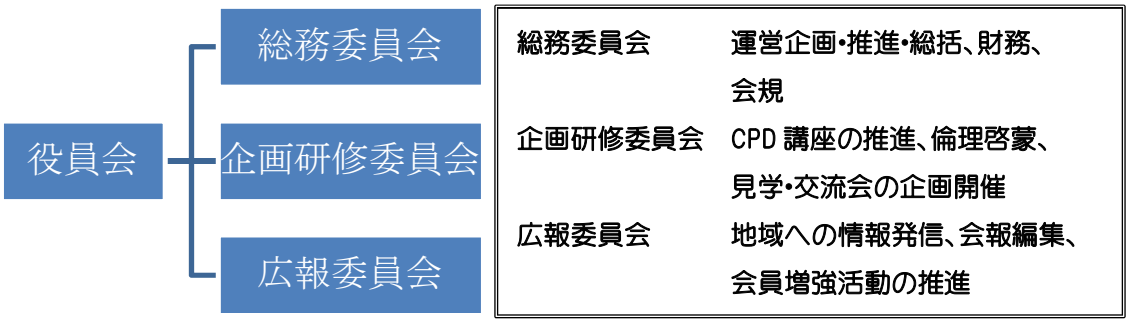
全体会合及び祝賀会状況　**日時：平成 24 年 7 月 4 日　場所：ホテル　メトロポリタン高崎**

全体会合

歴代会長表彰

祝賀会状況

組織概要



支部幹事

氏名	部門	委員
石塚　省吾	建設	会計幹事
大山　健一	機械	副支部長 広報委員
加藤　洋	機械、経営工学、 総合技術監理	支部長
齊田　典之	建設	総務委員（会計担当）
佐藤　孝史	上下水道、建設、衛生工学、 総合技術監理	総務委員
樋口　邦弘	建設	会計幹事
福島　長治	建設	総務委員長（事務局）
二川　真士	機械	企画研修委員
辺見　勇	機械	広報委員長
松本　泰彦	農業	広報委員
水口　正彦	建設	副支部長 総務委員
山本　政雄	上下水道、 総合技術監理	企画研修委員
山本　亮一	応用理学	企画研修委員長
13 名		

新人紹介

技術士としての抱負

住谷　英樹　上下水道部門（上水道及び工業用水）

私は、本年３月に技術士第二次試験に合格し、技術士登録を行い、上下水道部門（上水道及び工業用水道）の技術士となりました。現在、新水設計株式会社に在籍し、会社での主な業務は上水道の設計（基本計画・認可設計・実施設計等）を中心に、下水道や道路等の設計を行っています。

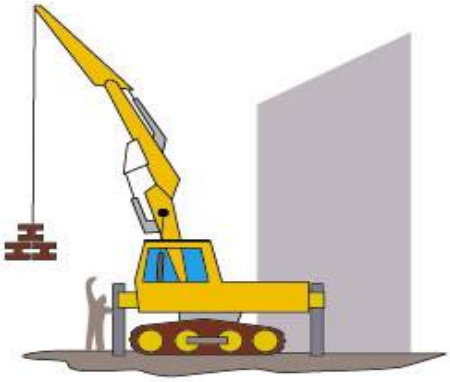
今回、技術士に合格することができ、技術者としての階段を一歩昇ることができたと感じております。ここから更に技術の研鑽に励み、技術者としての年輪を積み重ね、公益にお役立ち出来るような技術者を目指して日々努力していきたいと思います。

さて、私が専門とする上水道は、皆様の生命や健康維持に欠かすことのできない水を、清浄にして豊富、低廉で供給する重要な役割を担うライフラインの一つです。現在の水道普及率は全国平均で９７％を超え、約１００％と国民生活の一部となっております。

一方で、昨年の東日本大震災を要因とした福島第一原発事故に伴う給水停止。また、本年では不法投棄を要因としたホルムアルデヒドによる取水・給水停止など、水道水への不安感がこれまでに増して高まり、水道離れが顕在化している実情にあります。

さらに、水道施設は建設の時代から更新の時代へと移り変わっており、昭和４０年代を中心に急速に整備した水道施設が今後、一様に老朽化し更新の時期を迎えます。

このような背景の中、今日の水道事業が抱える課題は、水質管理体制の強化・施設の更新および耐震化・経営基盤の強化・給水サービス向上・技術の継承・電力消費量削減を中心とした環境負荷低減など、多くの課題や問題を抱えています。



こうした中、伊勢崎市を中心とした群馬県の水道事業に貢献できるよう日々の実務を一生懸命行い、技術と経験を積み重ね、少しでも技術士としてお役立ちできれば幸いです。

これからも、公益社団法人日本技術士会群馬支部の諸先輩方との交流を深め、様々な技術を吸収し、技術者としての幅を広げ、資質向上に努めて行きたいと思います。

今後とも、ご指導の程、宜しくお願い致します。

総務委員会報告

総務委員長　福島長治

総務委員会は、群馬県支部の総合的な窓口として支部運営に関する会計、会員宛の連絡報告、役員会の運営等を行うことを主な任務としています。支部は幹事で構成される役員会と一般会員が参加する全体会合(年次大会)を開催します。

運営は「総務委員会」、「企画研修委員会」、「広報委員会」の３つの委員会で行っておりますが、会員であれば一定の手続きを経て参加することができますので、是非多くの皆様に参加頂く事を期待しております。

現在の役員(幹事)の任期は本部理事の任期と同様になりますので、平成 25 年 6 月の定時総会までとなります。

これまで、群馬県内では技術士が活動・交流する場として、日本技術士会と提携関係にあった群馬県技術士会がその役割を果たしてきました。CPD 講演会の開催、ものづくり相談会の開催、現場見学会など、会員の継続研鑽や社会貢献の一環として活動して参りました。

昨年、日本技術士会の公益社団法人への移行に伴い、県単位の支部組織を設置する事となり、日本技術士会提携群馬県技術士会は本年 4 月 30 日を以って解散し、本年 1 月 19 日に本部理事会の承認を得て、公益社団法人日本技術士会群馬県支部が発足したところでございます。

去る 7 月 4 日には、関係者のご協力を戴き、群馬県支部の全体会合と支部の発足祝賀会が盛大に開催され、支部活動が本格的にスタート致しました。

群馬県支部が公益社団法人日本技術士会の組織として位置づけられた事により、積極的な CPD 活動や地域貢献の可能性が広がり、また、会員の拡大、関係機関との連携、技術士業務の拡大など、大いに期待するところでございます。

群馬県支部の会員数は、平成 24 年 3 月末現在で正会員 90 名、準会員 41 名総計 131 名であります。技術士会に入会していない皆様も会友として諸行事に参加戴く事としておりますので、群馬県支部発足を契機に多くの皆様に参加して戴き、支部組織の拡大にご協力して戴ければ幸いでございます。

また、行事案内等の会員への連絡は、公益社団法人日本技術士会の同報メールシステムを利用する事としておりますので、メールアドレスを未だ登録されてない会員の皆様には是非登録して戴くよう、お願いする次第です。

企画研修委員会通信

企画研修委員会よりのご挨拶

１．はじめに　　企画研修委員長　山本　亮一

公益社団法人日本技術士会群馬県支部の発足に当たり、新体制となりました企画研修委員会からのご挨拶をさせて戴きます。私、企画研修委員長を拝命しました応用理学部門（物理及び化学）の山本亮一と申します。企画研修委員会は、支部運営に携わる３つの委員会の一角を構成しています。支部発足に合わせて、幹事の中から、二川真士氏、山本政雄氏の両委員および私の３名が委員を拝命し、スタート致しました。現在では、更に会員の皆様の中から２名の方に加わって頂いております。

２．活動方針

本企画研修委員会は、支部運営の中の、「CPD 講座の推進、倫理啓蒙、見学・交流会の企画開催」を主に担当しております。企画方針と致しましては、支部方針、「技術士の品位の保持、専門技術の向上を図り、かつ会員相互の連絡を密にし、地域に密着し、技術士業務の啓発、地域経済・産業の発展、福祉の増進に寄与する」に則り、会員の継続研鑽や相互交流を目的と致します。また更には、公益社団法人の名に相応しく、地域社会に対する貢献も目的として活動して行く方針です。

３．本年度の企画

本年度は、以下の通り、３回の行事を予定しております。

・CPD 講演会

第一回　H24 年 12 月頃　　リスクマネジメント関連のテーマを予定

第二回　H25 年 2 月頃　　エネルギー関連のテーマを予定

・CPD 見学会

第一回　H24 年 11 月頃　　在新潟県企業の工場見学会を予定

本年度は、事実上 7 月の支部発足披露パーティー以降の活動となりましたので、企画数は少なくならざるを得ませんでした。次年度以降には、企画の数の充実化を図ると共に、中身としても、会員の皆様にも、より深くコミット戴ける様な企画、例えば会員の皆様の中から講師をお願いする様な企画、あるいは企業相談会の様な各位の技術士としての技量を存分に発揮して戴ける様な企画、などを構想しております。

４．終わりに

最後に、本委員会より会員の皆様に、以下のお願いを致したく思っております。

・各行事への積極的なご参加

・企画テーマ案のご提案

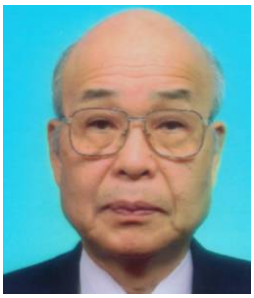
・企画委員会への参画、運営サイドとしてのご協力

以上、よろしくご協力お願い致します。

広報委員会通信

技術士は地域社会のために

広報委員長　辺見　勇



産業技術の変革が進行しつつあります。エネルギー問題は石油・石炭系資源消費型のエネルギー消費の最適効率化を目指しつつ、再生可能型エネルギーの補完型拡大を志向しています。

大地震の発生と原発の放射能拡散対策が大きな課題となりました。特に大きな災害を受けた後だけに、今後発生が予測される大災害に対する対策を立てて行く必要に迫られています。地域産業も環境の大きい変化を受け、経済性を追求しながら、発展が求められています。

技術士は、地域産業である、建設、農業、食品、化学、機械、電気電子などのそれぞれの専門分野を通じて、地域社会に貢献して行く事が要求されています。公共機関、農商工業団体、教育機関、金融機関、医療機関とも連携を保ちつつ、地域の産業を技術の面でサポートして行く努力が求められています。企業が目指すモノづくりの内容もエネルギーの変革とＩＴ技術の進歩と共に変革を遂げております。

今回の群馬県支部発足祝賀会では、60 名余りの来賓が来場され、我々技術士の前途を祝福して戴きました。我々群馬県支部の技術士会員として、地域の要望に応えて地域産業の益々の発展に寄与して行く責務を改めて感じました。

また、最近ではモノづくり研究会と共催で、県内企業を主とした相談会に参加して参りました。環境や技術の変化を自らの専門分野の知識、技術、能力を高めながら、周辺の技術の活用も図りつつ、進めて行く必要があります。講演会、見学会、相談会の他にも、中小企業の技術支援も考えられます。また、以前から、新エネルギー・産業技術開発機構や経済産業省のものづくり事業の支援をさせて戴いている技術士もおります。

技術士の中には、企業内技術士と独立技術士がおります。小生は勤務していた企業がインドの大企業の子会社と技術提携する事となり、リーダーを命ぜられました。相手企業の技術及び経営を体系的に、的確に指導して行くために技術士資格を取得し、10 年以上に亘り、無事契約を遂行できたのは資格を取得できたお蔭でした。

広報委員会としては、我々技術士が日夜、研鑽に努めつつ、地域に貢献しようとしている事を、地域の産業の経営者及び関係機関に周知させていく事が責務であると考えております。　　会員の真摯な具体的活動状況を周知徹底させ、関係機関との連携の下に、地域社会に貢献して行く事を重要の課題として捉えております。

そのため、ホームページや会報を通して、技術士活動を周知させて参ります。公益社団法人日本技術士会群馬県支部のホームページは 7 月上旬に公開されました。

追記：ＵＲＬは https://www.engineer.or.jp/c_shibu/gunma/　です。会員の皆様には、有益なご意見を当群馬県支部に寄せられますよう、情報の交流に今後益々のご協力をお願い致します。

編集後記

広報委員会は委員長：辺見　勇（機械：鉄道車両及び自動車）の他に委員：大山健一（副支部長、機械)、委員：松本泰彦（農業）の 3 名で構成されています。広報の目的は公益社団法人日本技術士会群馬県支部の活動情報を地域に発信して、地域産業の技術の発展を通して、経済発展に貢献して行く事にあります。7 月 4 日の群馬県支部の発足祝賀会には多数の来賓がご出席され、前途を祝福して戴き、我々の活躍を期待して戴きました。私どももご期待に応え、更なる努力を積み上げて行きたいと考えております。ホームページが開設されましたので、ぜひご覧いただき、支部の活動につきまして、ご意見があれば承りたいと存じております。ホーページにはご意見をお送り戴くコーナーもございますので、ご活用下さるようお願い致します。

広報委員会	
委員長	辺見　勇（機械）
委員	大山健一（機械）
委員	松本泰彦（農業）